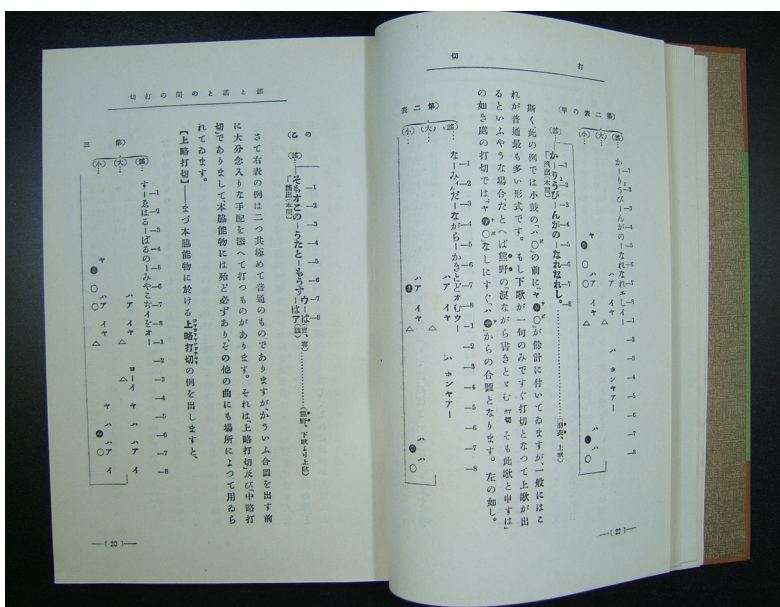


山崎楽堂 『噺子合方 謡出諷箴要義』

「全部の合方は知らなくとも、謡ひ出シ謡ひ嵌メに必要な部分の合方を知つてゐれば、それでいて実際上決して困る事はありません」(二―二三頁) とあるように、能や噺子に参加する歌い手(とくにシテ)が最小限知っておくべき知識を、素人のために、伝授する書物である。しかし、実際のところはむしろ、拍子を直感的にしか理解してないプロの歌い手にとって、有益な書物だったのであろう。しかし、右の言葉はあまりにも本質をついていて、人前でどうしようと読むに読めない本だったかもしれない。



標題 内題…噺子合方 謡出諷箴要義

標題紙…観世宝生喜多 対照相通 噺子

合方 謡出諷箴要義

奥附…

その他…噺子合方 謡出諷箴要義(背)

著者 奥附…山崎静太郎

その他の場所…工学士 山崎楽堂(標題

紙、山崎楽堂(背)

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…大正10(1921)

その他の場所…序 大正10(1921)

形態 冊数…一冊 頁数…三四六頁

寸法…22×15(cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考